

徳島駅周辺まちづくり計画

平成 30 年 6 月

徳島市

目次

はじめに	1 p
1.徳島駅周辺まちづくりの必要性	2 p
2.現状と課題	5 p
3.徳島駅周辺のまちづくりの基本的な考え方	14 p
4.にぎわい創出に向けたまちづくり施策	18 p
5.徳島駅周辺まちづくりのスケジュール	27 p

徳島駅周辺まちづくり計画の目的と位置づけ

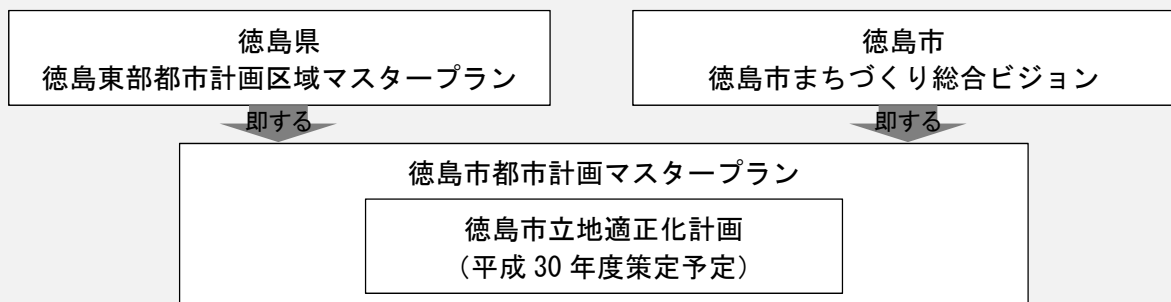
徳島駅周辺は、本市都市計画マスタープランにおいて、“既存の都市機能の集積を生かし、本市及び徳島都市圏の都市活力の維持・向上を担う広域的な都市機能拠点”として位置づけられています。また、本市まちづくり総合ビジョンでは、“集約された都市機能と、眉山や河川網による自然環境とが調和し、にぎわいにあふれた「歩いて暮らせる、歩いて楽しめる」都市空間がつくられ、交流人口と定住人口が共に増加し、人々の活気であふれているまち”を目指すこととしています。

本市では、現在、検討を進めている徳島市内鉄道高架事業（以下、鉄道高架事業、事業主体：徳島県）に合わせて一体的なまちづくりを行うため、平成22年に策定した「徳島駅周辺及び二軒屋駅周辺まちづくり計画（案）」を、より一層のにぎわい創出、都市の魅力づくり、公共交通の利用促進等の観点から見直しを行い、新たに徳島駅周辺まちづくり計画を策定することとしました。

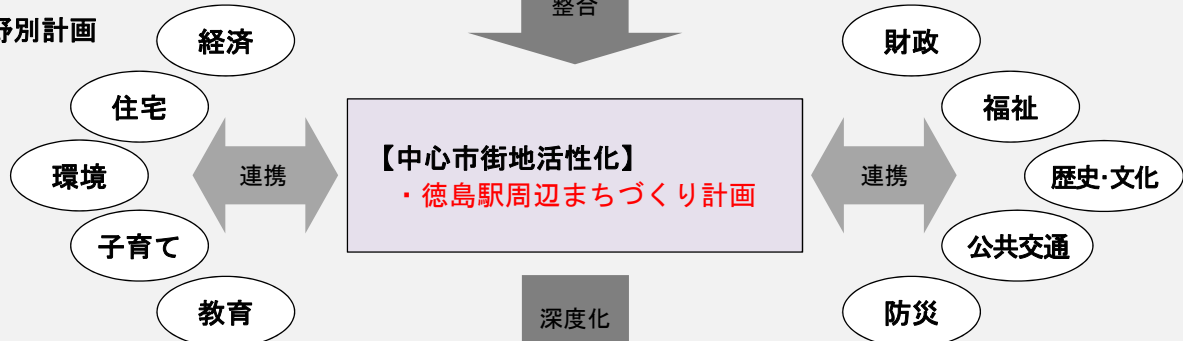
新たなまちづくり計画は、市の上位計画等との整合を図るとともに、徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会での意見等を踏まえ、徳島の玄関口にふさわしい拠点の形成に向けた方針や施策を定めるもので、その他の分野別計画と連携しながら、徳島駅周辺のにぎわい創出等に取り組みます。また、このまちづくり計画は、今後のまちづくりに関する個別施設計画などの基本となるものです。

なお、鉄道高架事業をはじめとして、徳島駅周辺のまちづくりには一定の期間を要することから、今後の社会経済情勢の変化や各種事業者等との調整により、必要な場合は、柔軟に計画内容の検証・見直しを行い、円滑なまちづくりを進めていきます。

上位計画



分野別計画



法的担保や個別施設計画等



など

徳島駅周辺まちづくり計画の位置づけ

1. 徳島駅周辺まちづくりの必要性

- 本市の人口や産業についての状況は、四国内の県庁所在都市の中でも厳しい状況にあり、都市の活力低下は本市の大きな課題となっています。本市は、県都として、本市、ひいては徳島県全体の活力を牽引していく必要があります。
- 人口減少や本格化する超高齢社会の中、本市は、現在の都市構造から持続可能な集約型都市構造へ再編し、「歩いて暮らせる、歩いて楽しめる」まちをめざす必要があります。
- 徳島駅周辺には、多様で拠点的な都市機能の集積や、水や緑といった本市ならではの資源が存在するほか、鉄道・バスといった複数の交通の結節点としての機能があることから、都市構造上の極めて重要な場所と位置づけられている一方で、低未利用地の増加など、多くの課題もあります。
- こうした中、徳島駅周辺で新たなにぎわいを創出し、都市の活力を高めるためには、官民が連携して、徳島駅周辺のまちづくりを着実に進めることが極めて重要となります。

①都市構造上の位置づけ

徳島駅周辺には、市役所をはじめとする重要な公共施設や拠点的な商業施設のほか、事業所も多く立地するなど、市民や県民の生活を支えています。また、新町川や中央公園などの、本市固有の地域資源も併せ持ち、本市が全国に誇る阿波おどりのメイン会場として機能しています。さらに、徳島駅は3線の鉄道や市内外を結ぶ路線バス、都市間を結ぶ高速バス等の交通結節点となっており、広域からも多くの人を受け入れています。

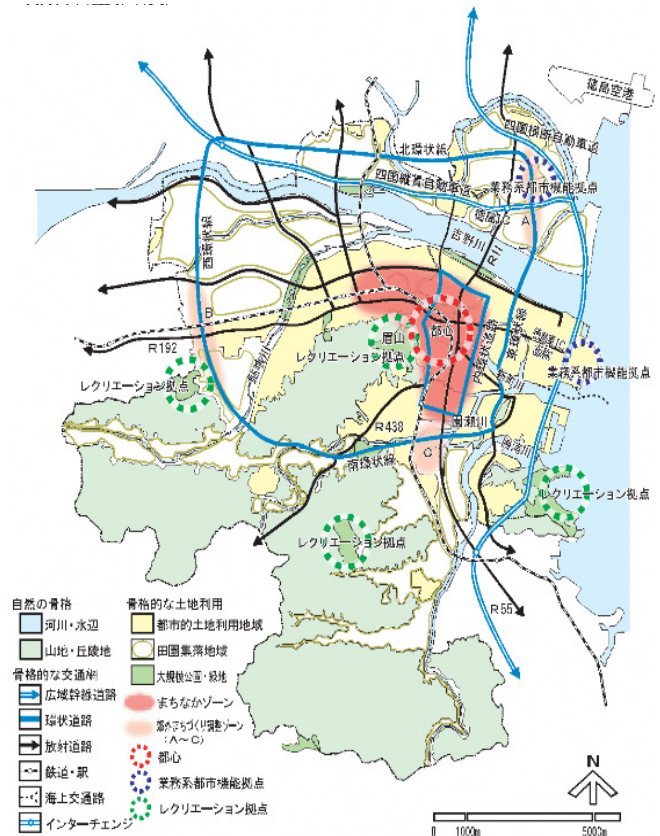


駅周辺で行われる阿波おどり

徳島市の最上位計画であるまちづくり総合ビジョン（平成29年度）においても、今後10年の取組として中心市街地の活性化を位置づけており、「歩いて暮らせる、歩いて楽しめるまち」をめざすこととしています。

具体的には、新ホールの開館や川の駅ネットワークの構築、鉄道高架事業の推進などの取組を掲げ、にぎわいと活力のあるまちづくりを進めることとしています。

また、都市計画マスタープランでは、集約型都市構造をめざすこととしており、徳島駅周辺は都心と位置づけられる重要な場所となっています。その中で、鉄道高架事業に合わせた徳島駅周辺の再整備の検討や都市機能の誘導、既存の道路空間の再配分による自転車・歩行者空間の確保の推進など、駅周辺まちづくりの様々な方針を位置づけています。



将来都市構造図

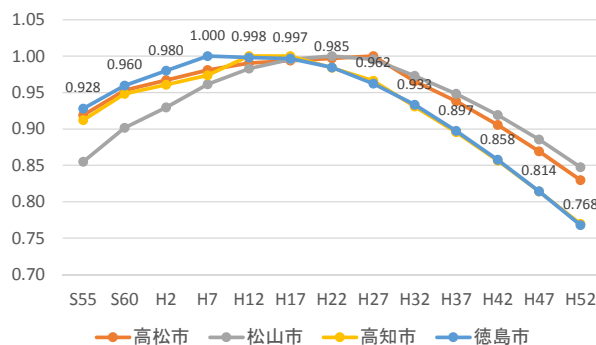
資料：都市計画マスタープラン

②人口の推移

本市の人口は、平成7年をピークに減少に転じており、四国内県庁所在都市（以降、「四国4市」）の中で最も早く人口減少局面を迎えています。今後は、さらに人口減少が加速し、平成52年時点でピーク時の8割弱にまで減少すると予測されています。この減少率は四国4市の中で最も大きな値となっています。

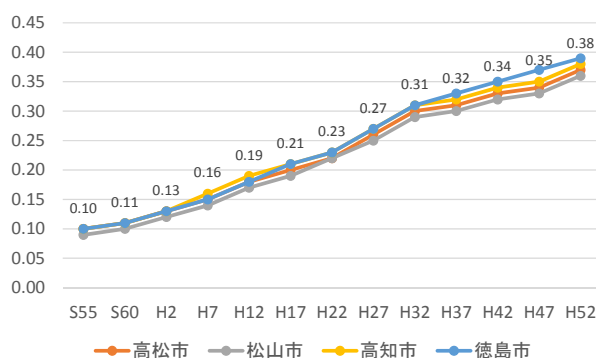
高齢化率についても、平成27年時点で高齢化率は27%となっており、すでに4人に1人以上が高齢者という状況です。今後は、さらに高齢化が進行し、平成52年時点の高齢化率は38%にまで上昇する見込みです。この予測値は四国4市の中で最も高い値となっています。

本市は、四国4市の中でも人口減少・高齢化に関して極めて厳しい状況に置かれており、定住人口の減少に起因する都市の活力の低下は早急に解決すべき事項となっています。



人口の推移 (各都市のピーク時を1.0と設定)

資料：RESAS

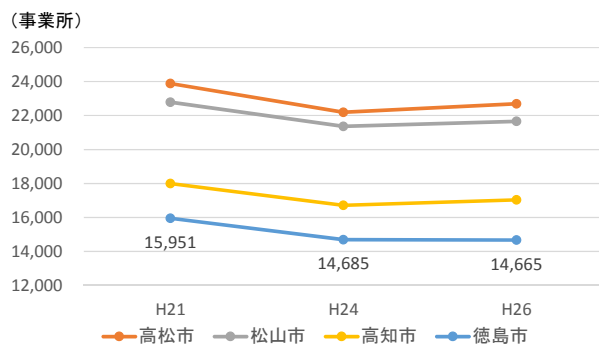


高齢化率の推移

資料：RESAS

③事業所の推移

本市には、市外からも多くの通勤・通学者を迎え入れており、また、多くの事業所が立地し、広域的な業務機能を支えています。長期的には、事業所数は四国4市全体で減少傾向にありますが、本市を除く3市は、平成24年から平成26年にかけて微増に転じている中、本市のみが減少を続けています。

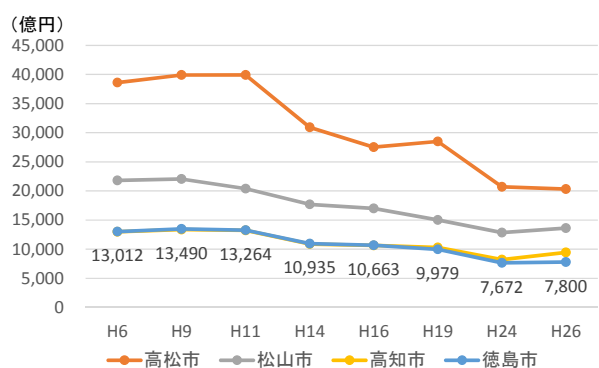


事業所数の推移

資料：RESAS

④商業の推移

本市の卸売・小売業における年間販売額も平成9年をピークに減少を続けています。四国4市も同様に減少傾向となっていますが、本市は平成26年時点でピーク時の58%にまで落ち込んでいます。この減少率は、高松市に次いで二番目となっており、販売額の7,800億円は四国4市の中で最も少ない状況です。

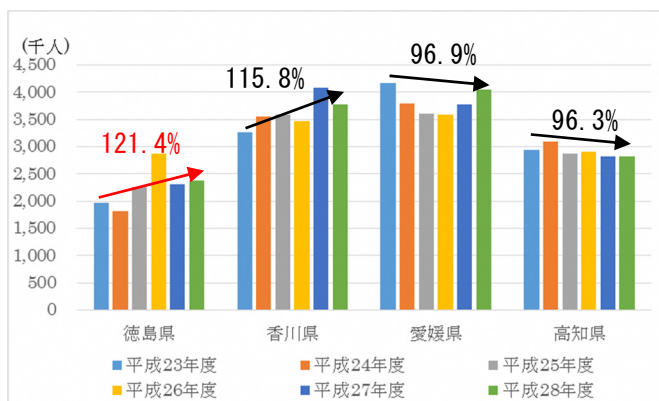


年間商品販売額の推移

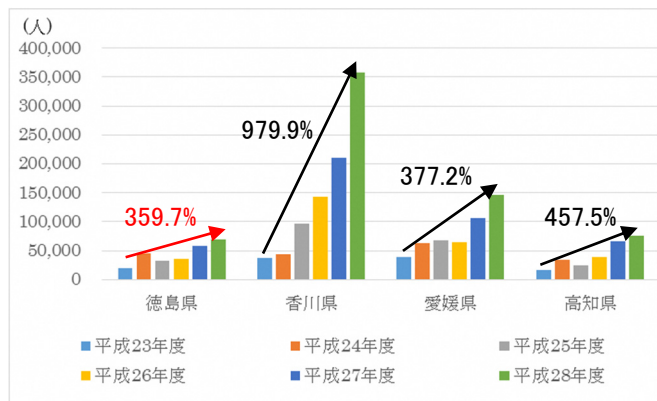
資料：RESAS

⑤来訪者数（宿泊者数）の推移

徳島県はこの5年間の変化率は四国内で最も高く、宿泊者の増加が顕著となっています。しかし、宿泊者数（総数）では、徳島県は他の3県に比べると少ない状態です。宿泊者数が少ない傾向は外国人についても同様であり、香川県や愛媛県に比べ、徳島県における外国人宿泊者数は極めて少ない状況となっています。また、外国人宿泊客数の増加率は、他の3県に比べて最も少なく、外国人を県内に多く呼び込めていない状況があると考えられます。



宿泊者数（総数）の推移



宿泊者数（外国人）の推移

資料：宿泊旅行統計

2. 現状と課題

1) 土地利用・都市機能

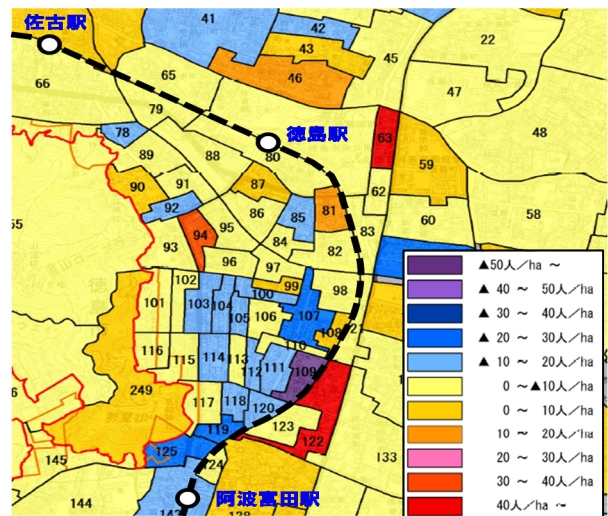
まちづくりの課題：「県都にふさわしい都市機能集積の不足」

- 徳島駅周辺では、人口減少・高齢化が進んでおり、業務・商業機能の低下と相まって、さらなるにぎわいの低下が懸念されます。
- 徳島駅周辺には多くの空地があり、建築後かなりの年数が経過した建築物が多く存在しています。また、鉄道車両基地が駅直近に設置されているなど、駅周辺という高いポテンシャルを十分に生かしていません。

①居住機能

全市的に人口減少・高齢化が進行しているのは、先に示した通りですが、徳島駅周辺においてもその流れは同様となっています。特に駅周辺の人口構成は、全市に比べて、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15歳～64歳）が少なく、高齢者が多くなっており、今後の高齢化の進行状況によっては、まちの活力がさらに低下する懸念があります。

一方、駅周辺の一部ではマンション等が建設され、建設された場所では、人口の増加も確認されています。



駅周辺での人口の増減（H17～H22）

資料：都市計画基礎調査

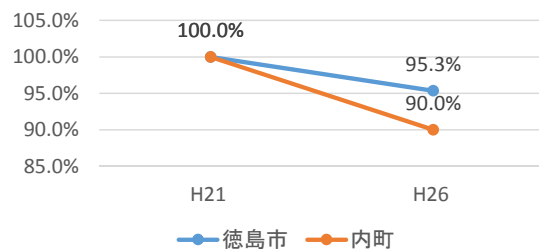
②業務機能

徳島駅周辺（内町地区）の事業所数・従業者数も減少傾向にあり、特にこの5年で149事業所、従業者数は2,180人も減少しています。

内町地区の市内従業者数に占めるシェアは、平成21年時点で14.6%となっていました。この5年で13.8%にまで低下しています（いずれも市内では最大のシェア）。この従業者数の減少率は、市全体の減少率より大きくなっています。

駅周辺での事業所数・従業者数の増減

	事業所数			従業者数		
	H21	H26	減少数 (減少率)	H21	H26	減少数 (減少率)
徳島市	16,331	15,031	-1,300 -8.0%	149,713	142,746	-6,967 -4.7%
内町	1,793	1,644	-149 -8.3%	21,821	19,641	-2,180 -10.0%
(シェア)	11.0%	10.9%		14.6%	13.8%	



従業者数の減少率（平成21年を100%と設定）

資料：徳島市資料

③商業機能

徳島駅周辺には、市内唯一の百貨店と商店街などの小規模店が複合的に集積しています。

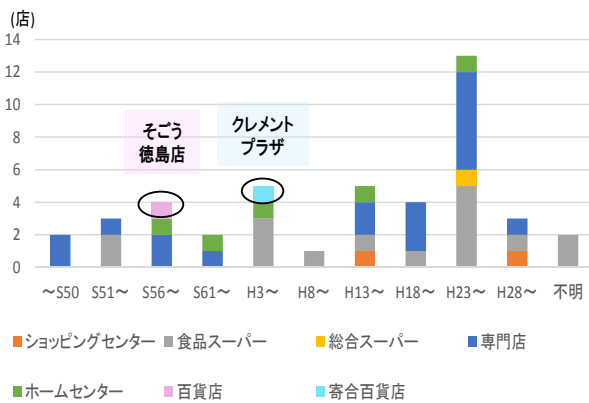
本市では、昭和50年代から継続的に大規模小売店の出店が続いており、駅周辺以外の地域への出店がそのほとんどを占めています。

また、駅周辺で運営されている複数の商店街では、空き店舗も見受けられ、十分なにぎわいが生まれていない状況にあります。



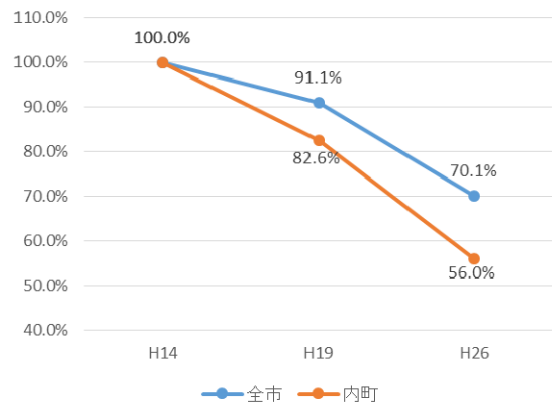
空き店舗も見受けられる商店街

大型小売店の郊外への進出や商店街の空き店舗の発生などの影響などから、駅周辺(内町地区)の年間販売額の減少率は市全体の減少率を上回っています。



市内での大型小売店舗の進出状況

資料：全国大型小売店総覧



年間商品販売額の減少率 (平成14年を100%と設定)

資料：商業統計

④文化・スポーツ・レクリエーション機能

閉館した旧文化センターに代わる市民の文化活動の拠点となる新ホールの開館を目指し、徳島駅西側の駐車場を建設候補地として検討を行っています。新ホールを利用するために、人々が駅周辺に訪れることにより、駅周辺の商業施設の利用や、公共交通の利用促進につながることを期待されます。

また、駅北側には市立体育館などのスポーツ施設も集積しており、各競技の選手権大会も開催されていますが、築39年が経過し、更新の検討が必要な時期に差し掛かってきています。

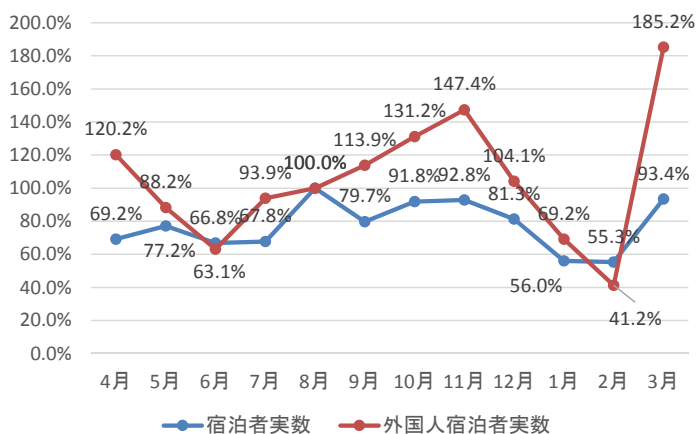
⑤観光関連機能

本市では、阿波おどりが最大の集客となっており、年間約120万人の観光客を受け入れています。阿波おどりは4日間の開催である一方、阿波おどり会館は年間40万人以上の観光客を継続的に受け入れています。

徳島駅周辺には、複数の宿泊施設が立地しており、近年新たな施設も開業しています。本市の月別の宿泊者数は阿波おどりが開催される8月がピークですが、冬季以外は一定の宿泊客が存在しています。

また、外国人宿泊者数は8月以外にピークを迎えており、阿波おどり時期に十分な受け入れができていないことが想定されます。

また、観光案内所は徳島駅前に整備されていますが、駅前広場内の奥まった場所にあるために、駅からの視認性も悪く、有効に活用されているとは言い難いことから、観光客の利便性向上の観点から改善の必要があります。



月別の宿泊者数の推移(8月を100%として指標化)

資料：H28 宿泊旅行統計調査



駅前広場内の観光案内所

⑥教育・子育て関連機能

徳島駅周辺には保育所や子育て安心ステーションといった複数の子育て支援施設が立地しています。子育て安心ステーションでは、子育てに関する情報提供や講座開催、託児サービス等が実施されており、親子の交流の場ともなっています。

今後、駅周辺に子育て世帯の人々にも多く来てもらうためには、さらに施設機能の充実やサービスの拡充に取り組んでいく必要があります。



子育て安心ステーション

⑦医療・福祉機能

徳島駅周辺には、総合病院や多くの診療所が集積しており、提供される診療科は、内科・外科・産婦人科・小児科等の主要な診療科をカバーしています。

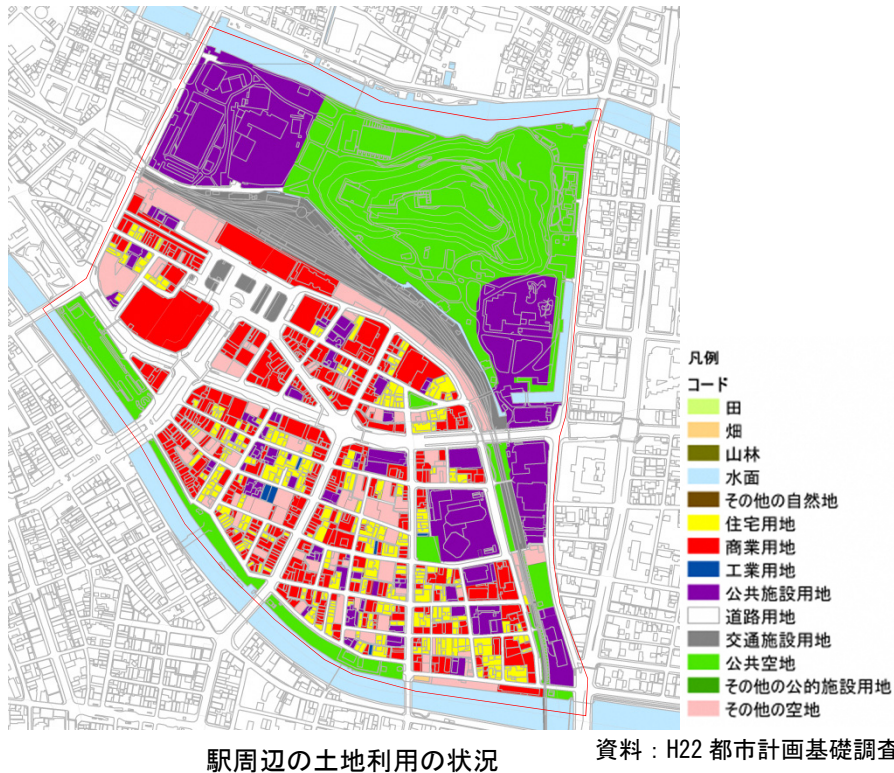
駅周辺で提供される主要な診療科
内科・外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科・整形外科・皮膚科等



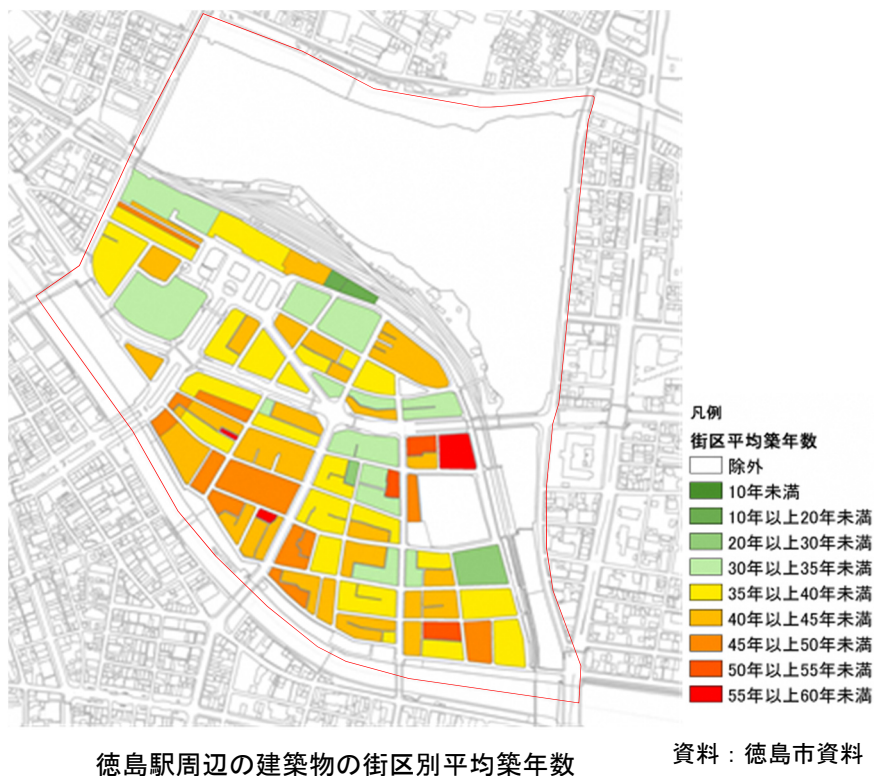
資料：ゼンリン住宅地図

⑧土地・建築物の状況

徳島駅周辺の土地利用として、駅に隣接して鉄道車両基地が配置されているとともに、多くの空地（主に小規模平面駐車場）があり、駅前としての土地の高度利用が十分に進んでいません。また、国道192号よりも南側の街区を中心に、建築後かなりの年数が経過した建築物も相当数認められます。



資料：H22 都市計画基礎調査



資料：徳島市資料

※街区内の建築物には、居宅・店舗・事務所のほか、倉庫・物置・車庫等全ての課税物件が含まれます。

2) 公共空間やオープンスペース

まちづくりの課題：「地域資源を身近に感じられる仕掛けの不足」

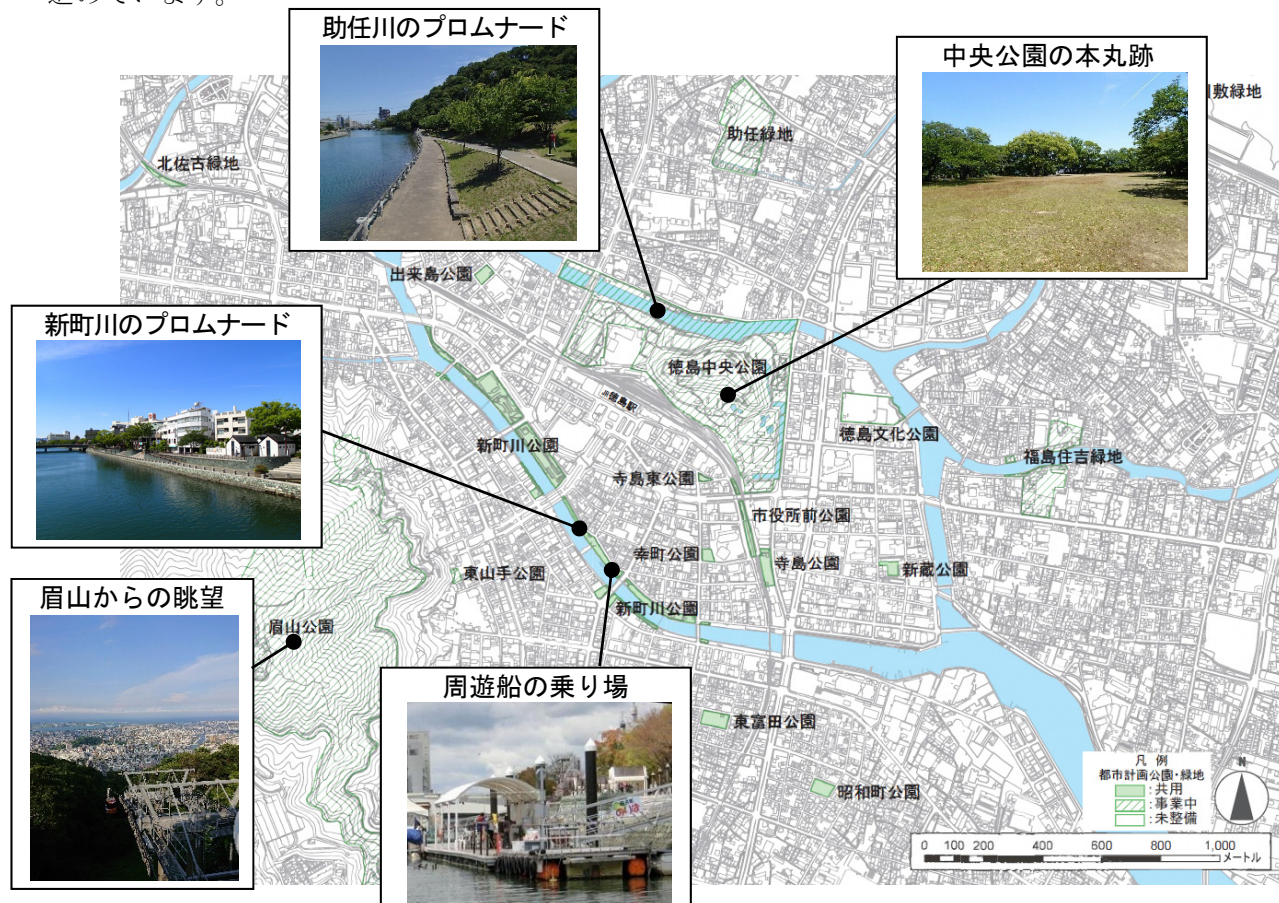
- 徳島駅周辺には、徳島中央公園や眉山、新町川や助任川といった本市ならではの資源が存在しているにもかかわらず、その存在を駅周辺で身近に感じられない状況にあります。そのために、駅周辺の魅力が駅への来訪者に伝わらず、回遊行動を促すには至っていません。
- 徳島駅周辺には人が滞留し、憩える空間が少なく、来訪者へのホスピタリティが不足しています。
- 景観についても、まちなみが都市の顔としてふさわしいものになっておらず、地域資源を感じられない状況や憩い空間の不足とあいまって、“歩いて楽しめるまち”とはなっていません。

①水と緑の資源の分布

徳島駅周辺のまちづくりにあたっての大きな特徴として、眉山や徳島中央公園といった拠点的な緑が立地していることが挙げられます。

徳島中央公園内には、徳島城址や徳島城博物館といった歴史的資源や、市立体育館といったスポーツに関する機能が立地しており、市立体育館では、各競技の選手権大会も開催されています。本市のシンボルでもある眉山についても、山頂は公園として整備され、展望台や林間駐車場、野鳥観察園路等の山頂施設が運営されています。また、山頂からは、駅周辺のまちを一望することができ、山頂へは、阿波おどり会館からのロープウェイや登山道など、いくつかのアクセス方法があり、四季を通じて親しまれています。

また、新町川や助任川といった水の資源を有することも徳島駅周辺の特徴となっており、護岸やプロムナードの整備、NPO法人によるひょうたん島周遊船など、資源の活用に向けた取組を進めています。



駅周辺の緑と水の資源の状況

②徳島駅前滞留空間の状況

徳島駅の駅前広場には、人が滞留し、憩える空間が十分に確保されておらず、駅や駅前広場は単なる通過点となっており、にぎわいが生まれにくい状況となっています。

また、徳島中央公園～徳島駅～眉山をつなぐ主要な動線となる停車場線や国道438号の沿線にもそのような空間が少なく、地域資源にアクセスする際の十分なホスピタリティが確保されていません。



駅出口に滞留空間がなく、にぎわいが生まれない

③景観の状況

本市の玄関口である徳島駅前の広場周辺や、駅からの主要な回遊動線となる停車場線や国道438号、一番町商店街については、現時点で景観の連続性が十分に見られません。ホスピタリティの不足と相まって、“歩いて楽しめるまち”が形成されていない状況です。



シンボリックな景観が形成されていない駅前広場



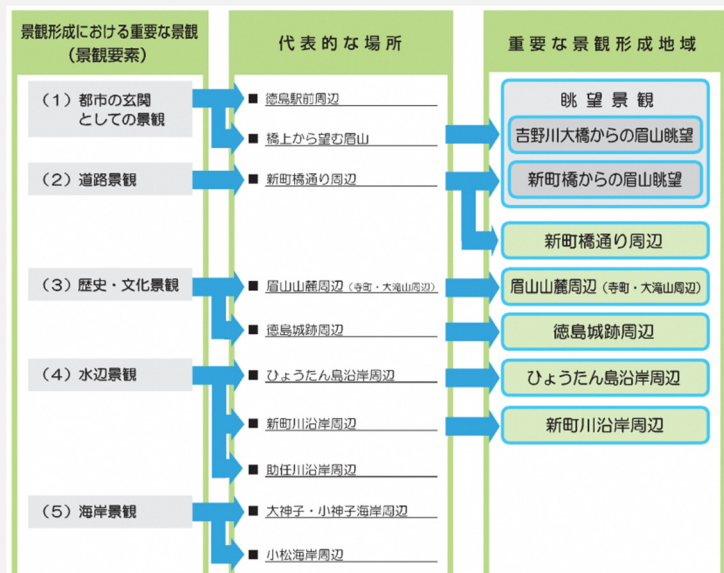
にぎわいが感じられる景観となっていない国道438号沿道



屋外広告物などのルールがなく、景観性に乏しい一番町商店街

【参考】徳島市景観計画における重要な景観形成地域

本市では、景観計画を策定し、徳島駅周辺においても複数の“重要な景観形成地域”を定め、景観誘導を既に実施しています。しかし、駅前広場など、徳島駅周辺まちづくりにおいて重要な箇所全てが“重要な景観形成地域”として指定されているわけではありません。



景観計画における重要な景観形成

資料：徳島市景観計画

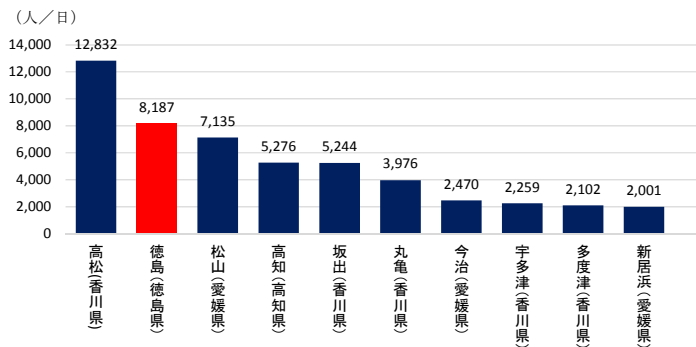
3) 交通ネットワーク

まちづくりの課題：「安全で快適な歩行者空間の不足」

- 徳島駅はJRの駅の中では四国で第2位の乗車人員を誇る拠点駅で、市内を走るバス全てが発着する、県内最大の広域交通結節点となっています。しかし、人口減少や自動車に過度に依存した交通体系などの影響を受け、公共交通利用者数は減少を続けています。
- 鉄道やバスの利用者が多く利用する駅前広場についても、通過交通の流入や歩行者の安全性・快適性の不足といった様々な問題が発生しており、必ずしも本市の玄関口としてふさわしい機能が確保されていません。
- 道路ネットワークについても、慢性的な混雑が発生している場所や、交通量に対して十分過ぎる道路幅員となっている場所が存在しており、再整備が必要です。なお、再整備にあたっては、歩行者や公共交通利用者向けの空間の充実などにも十分に配慮する必要があります。

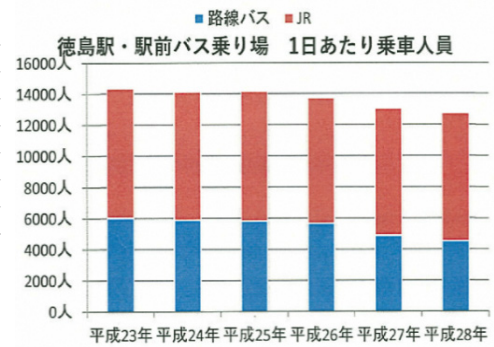
①徳島駅の利用状況

徳島駅は、四国のJR駅では高松駅に次いで第2位の乗車人員を有する駅であり、本市及び周辺市町村にとっても重要な交流・交通結節機能を担っています。しかしながら、徳島駅前広場を発着する路線バスの乗車人員は減少を続けているとともに、鉄道においてもJR各線の利用者数は将来減少する見込みとなっています。



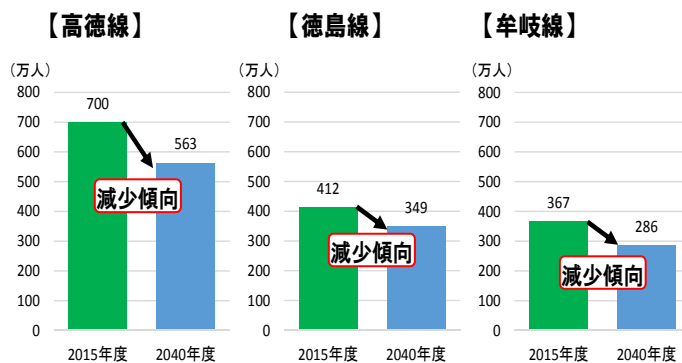
JR四国内の乗車人員の上位10駅 (H28年度)

資料：JR四国



徳島駅・駅前バス乗り場 1日あたり乗車人員

資料：徳島市資料



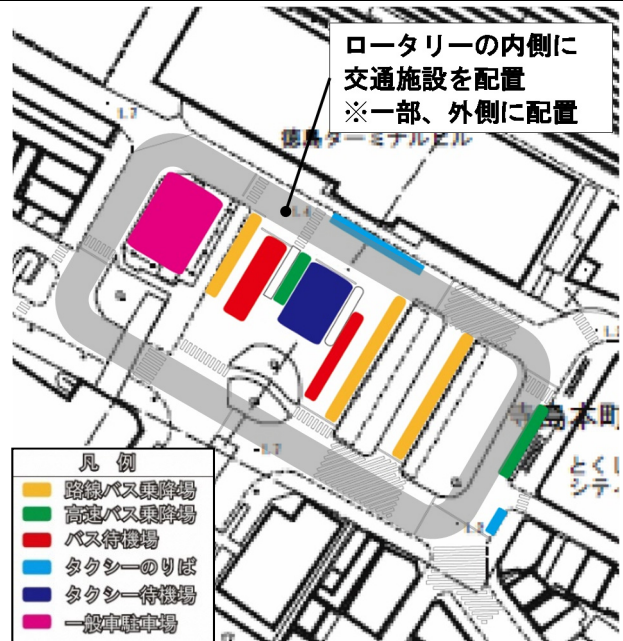
JR路線の利用者減少見込み

資料：四国運輸局推計

②徳島駅前広場の状況

駅前広場のロータリーは、車道が2～3車線確保されているために、多くの通過車両などが進入しています。また、広場内に信号交差点も複数設置されており、車両動線が輻輳しています。また、一般車乗降場や荷さばき関連機能が明確化されていないために、ロータリー内での駐停車なども見受けられます。

一方、公共交通利用者の観点からは、バス乗り場に待合スペースが不足している部分があるとともに、車両動線との交差など、安全な歩行者動線が確保されていない状況です。また、駅から周辺の施設へ向かう際にも、車道の横断が複数回必要になるなど、回遊性の高い歩行者ネットワークが構築できていません。



駅前広場の施設レイアウト



歩行者と車両の動線が交差



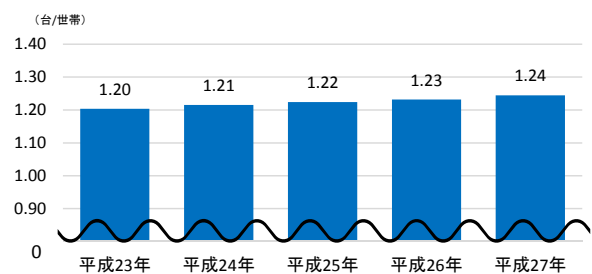
十分な待合スペースが確保されていないバス乗降場



駅前の滞留空間の不足

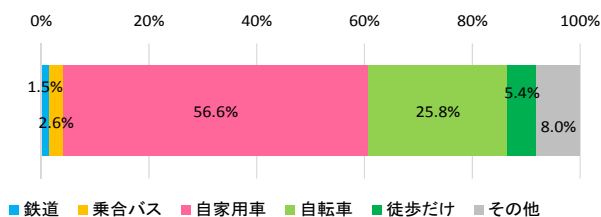
③自動車利用の状況

本市の自動車保有台数は年々増加傾向にあり、平成27年時点で14万3千台（1世帯当たり1.24台）となっています。また、通勤通学時においても、56.6%が自動車を利用しており、自動車に依存した交通体系となっています。



一世帯当たりの自動車保有台数

資料：徳島市資料



通勤通学時の代表交通手段

資料：国勢調査（H22）

④道路ネットワークの状況

徳島駅周辺の幹線道路では、主要渋滞箇所が連坦しています。また、交通量が交通容量を超過している箇所も複数あり、徳島駅南側の国道192号(徳島本町交差点～元町交差点)では混雑度が1.75を超え、慢性的な混雑が起きています。

鉄道との交差点部では、花畑踏切が自動車ボトルネック踏切及び歩行者ボトルネック踏切となっています。1日約2.2万台の自動車及び約2600人の歩行者が横断していますが、1日4時間以上の遮断時間があり、藍場町交差点まで渋滞が及ぶ場合もあります。

一方で、新町橋通りでは、自動車交通量に対して十分過ぎる車線数で運用されており、都市の限られた空間を上手く活用できていない状況となっています。



駅周辺道路の混雑度

資料：道路交通センサス（H27）

花畑踏切	
自動車交通量(台/日)	22,161
歩行者交通量(人/日)	2,556
踏切自動車交通遮断量(台・時)	99,725

※踏切自動車交通遮断量 = 自動車交通量 × 踏切遮断時間

資料：踏切安全カルテ（国土交通省）

また、一番町商店街の市道においても、交通量当たりの車線や道路幅員が広いために、駅前広場への通過交通の進入を促す原因の一つとなっています。

歩行者ネットワークの観点では、国道横断部において歩行者が立体横断を強いられる場所が存在するなど、歩行者にとっての快適性が十分に確保されていません。



渋滞が発生している花畑踏切



交通量に対して、余裕のある車線数を持つ新町橋通り

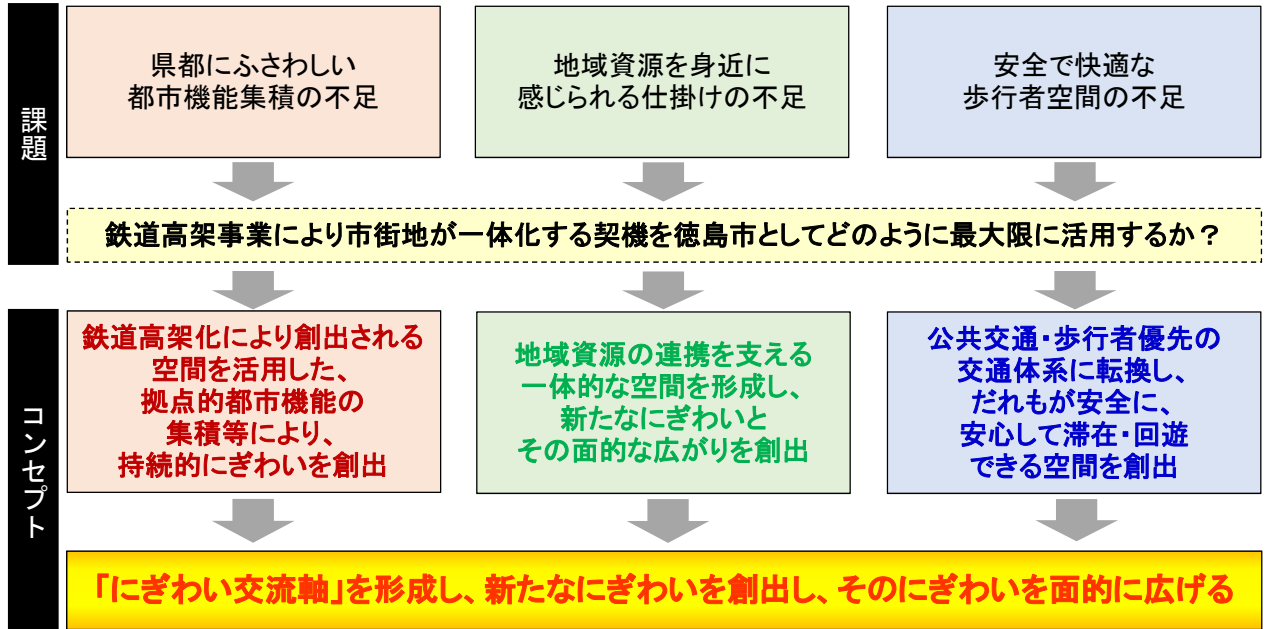


歩行者が立体横断を強いられる元町交差点

3. 徳島駅周辺のまちづくりの基本的な考え方

①まちづくりのコンセプト

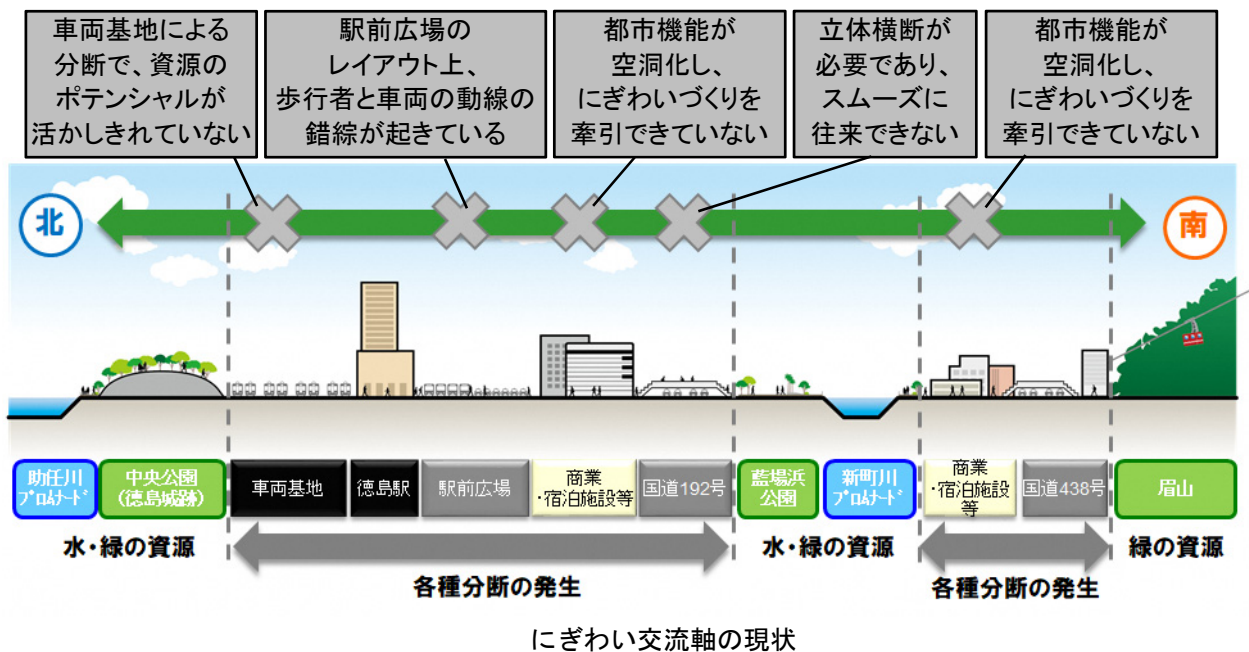
徳島駅周辺のまちづくり上の課題を解決し、徳島駅周辺のまちづくりに大きなインパクトを与える鉄道高架事業の効果を最大に活用するため、以下のまちづくりのコンセプトを掲げます。



現状、中央公園から徳島駅前広場を経由し眉山に至る動線は、多くの要素により分断されています。車両基地による分断は、駅から中央公園方面へのアクセス性を阻害しており、駅に隣接して雄大な緑や歴史があるという徳島駅の大きな立地上の特徴を生かしきれていません。

また、駅前広場については、車両と歩行者の動線が混在し、眉山や新町川といった地域資源につながる動線が明確にならず、徳島駅を拠点とした回遊性が生まれにくい状況になっています。

その他都市機能においても、空洞化による分断が発生しており、駅周辺の都市機能と地域資源の連携が保たれておらず、にぎわいにつながらない状況となっています。



このような分断要素を解消し、新たなにぎわいとそのにぎわいの面的広がりを創出するため、各種施策を実施しながら「にぎわい交流軸」(徳島中央公園～徳島駅前広場～眉山)を形成します。

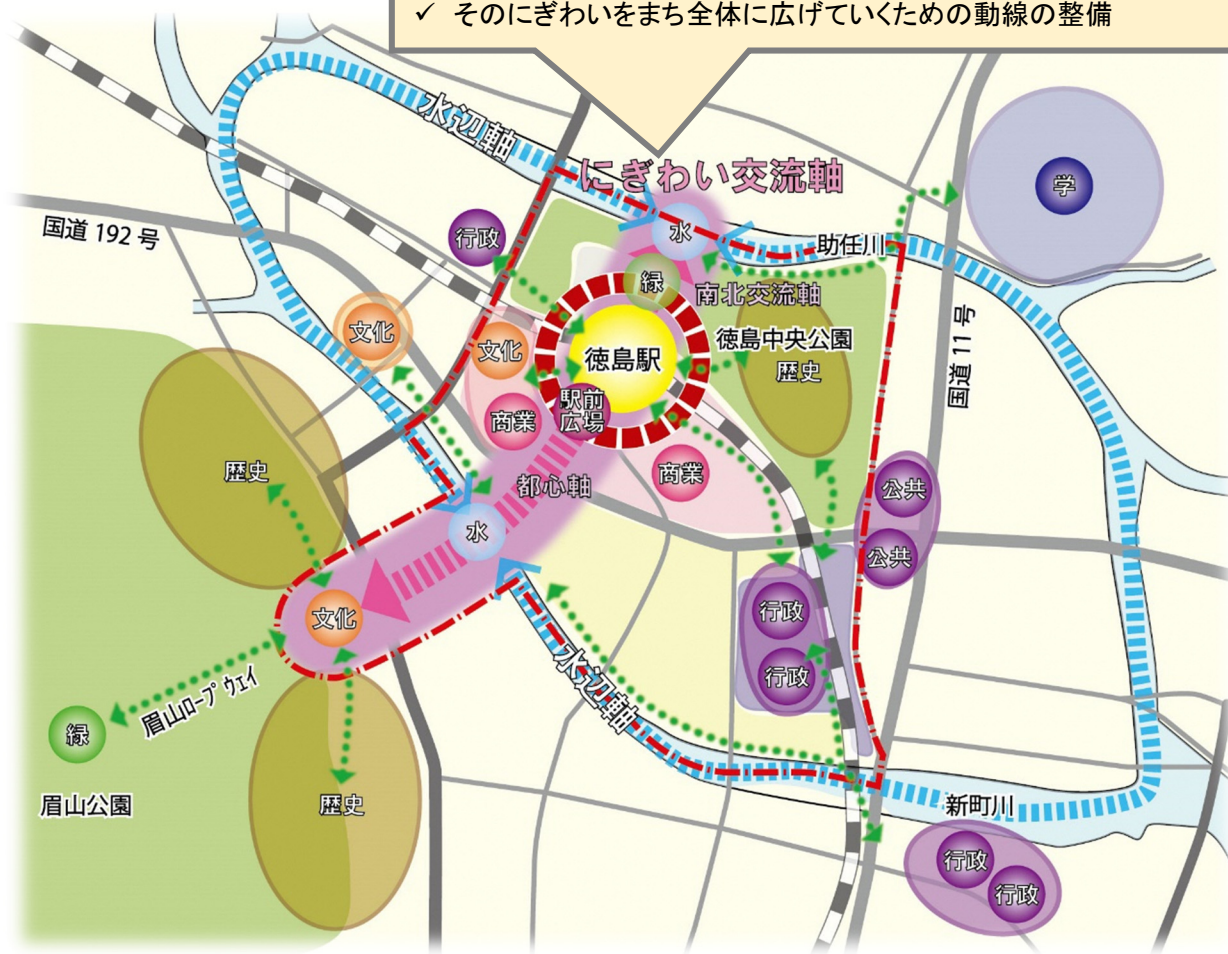
「にぎわい交流軸」の形成においては、駅前広場を中心とした公共空間を、子供から高齢者までの様々な世代の人々が、憩いの場、交流の場、活動の場として利用できる上質で居心地の良い滞留空間と、安全に安心して移動でき、高い回遊性を持った歩行者空間に再編し、車中心から人中心への空間に転換を図ります。

また、駅周辺に整備された魅力的な公共空間や都市機能が一体的に機能し、多くの人が集まり、にぎわいにつながるような仕掛けづくりを、官民で連携して取り組んでいきます。

「にぎわい交流軸」の形成

(中央公園～徳島駅前広場～眉山)

- ✓ 都心軸(シンボルゾーン)ならびに南北交流軸を創出するとともに、2つの軸を結節する駅前広場を、人々にとって上質で居心地の良い空間に再編
- ✓ 都市機能誘導やオープンスペース整備、歩行者や公共交通優先の空間づくりを集中的に行い、新たなにぎわいを創出
- ✓ そのにぎわいをまち全体に広げていくための動線の整備



まちづくりのコンセプト図

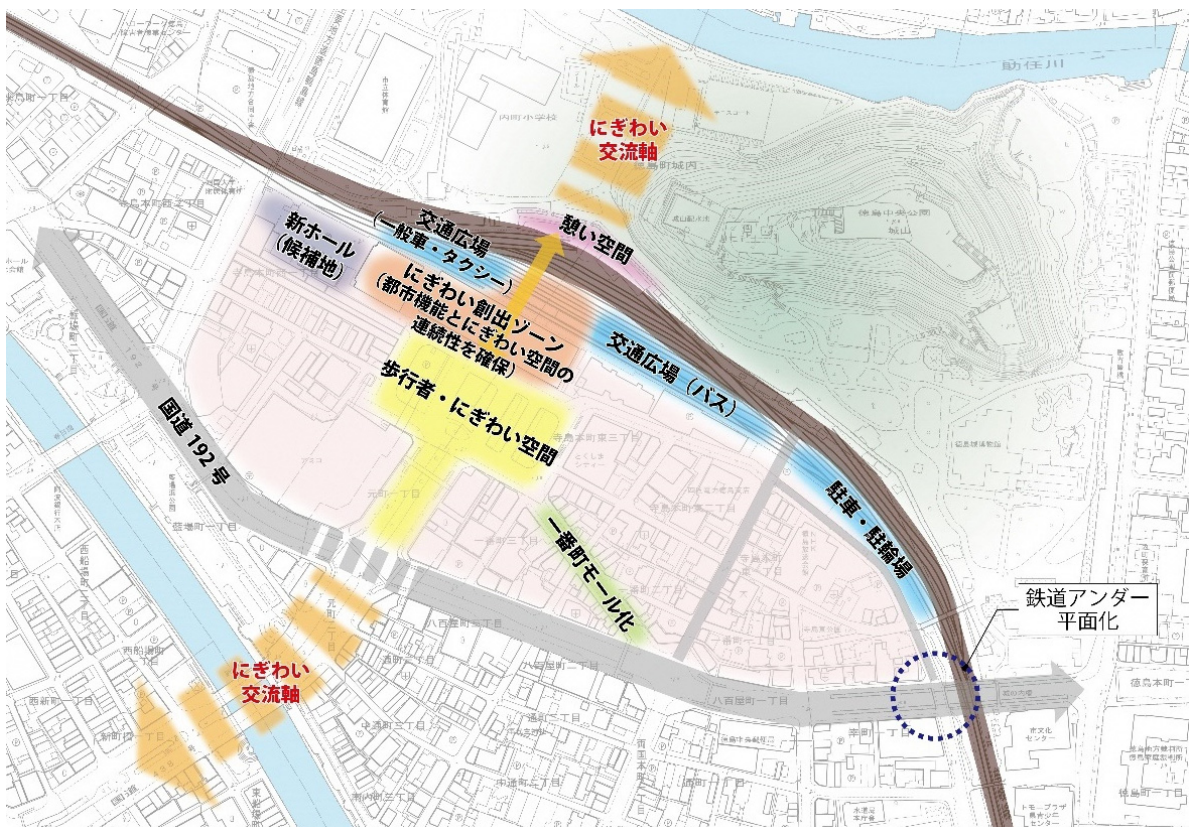
〔 〕は本計画で対象とした区域

②にぎわい交流軸の形成に向けた空間再編の考え方

「にぎわい交流軸」の形成にあたって、交流軸の核となる駅前広場やその周辺の空間再編の基本的な考え方は次のとおりです。

- 「にぎわい交流軸」の中心となる駅前広場を、人が中心の居心地良い空間や新たなにぎわいを創出するための空間に転換するには、既存の公共交通空間に対して、歩行者空間をさらに充実していく必要があります。
- 既存の駅前広場がある駅南側は広場に隣接して多くの都市機能が立地するなど、現在のまちのにぎわいの中心となっています。
- 歩行者空間を充実していくためには、駅前広場の拡張や再整備が必要となりますが、多くの都市機能が立地するがゆえに駅南側では駅前広場として活用できる空間が限られており、車両基地の移転により生み出される空間や既存施設の空間を一体的に捉えて新たな空間を創出する必要があります。
- 一方、駅北側に広がる徳島中央公園は、史跡に指定されていることもあり、駅南側の都市機能などを中心としたにぎわいではなく、歴史を感じることができる憩いの空間として保存・活用し、駅南北で役割を分担します。
- このような駅南北の役割分担を踏まえ、駅前広場等ににぎわい空間については、各種都市機能と近接する駅南側で一体的に確保することが望ましく、都市機能の誘導と一体的に空間を整備し、より一層のにぎわいを創出していくこととします。

以上の考え方から、鉄道高架の位置を可能な限り北側（徳島中央公園側）に変更し、駅南側で都市機能と駅前広場空間が一体的につながったにぎわい空間を確保します。



空間再編イメージ

③徳島駅周辺まちづくりの将来像と基本方針

徳島駅周辺のまちづくりのコンセプトとして「にぎわい交流軸」を形成し、駅周辺ならではの地域資源や都市機能と、徳島駅の来訪者をネットワークでつなぎ、より一層のにぎわいを創出していきます。このような考え方から、まちづくりの将来像を次の通りに掲げます。

“笑顔(ひと)”と“潤い(水・みどり)”がつながり、 にぎわいあふれる水都交流拠点

- ◆ 様々な世代が集い交流できる駅前広場を中心とした「公共空間」と、安全で快適な「歩行者・自転車ネットワーク」や、交通結節点としての利便性が向上した「交通広場」が一体的に機能し、市民をはじめ、駅利用者や来訪者をまちに誘い、滞留・回遊を生み、まち全体のにぎわいが広がっている
- ◆ 駅周辺に整備された魅力的な都市機能や公共空間に、人が集まり、にぎわいが生まれ、そのにぎわいが、さらに新たな都市機能等呼び込む好循環が生まれている

まちづくりのコンセプトや将来像の実現に向けて、次の4つのまちづくり方針を掲げます。

基本方針1

四国東部の 中核都市にふさわしい 都市機能を集積し、 にぎわいを創出する

- ◇都市機能の強化・更新・誘導等による都市拠点形成
- ◇鉄道高架事業により生み出される土地や空間などを活用したにぎわいづくり
- ◇文化施設整備等による新たな芸術文化機能の集積・展開
- ◇観光情報の発信
- ◇民間の投資を呼び込むための公共空間の魅力化
- ◇まちなか居住の推進

基本方針2

地域資源を身近に 感じることができる都市景観と、 人々が歩いて楽しみ、 滞留や交流が生まれる 居心地よい公共空間を創出する

- ◇人が集い、にぎわいに触れられる公共空間の創出
- ◇本市の顔（シンボル）となる玄関口としてふさわしい徳島駅や駅周辺のまちなみ・眺望景観形成
- ◇新町川・助任川の水の資源を感じられる空間の形成
- ◇徳島中央公園や眉山の緑、徳島城の歴史などを楽しめる空間の形成

基本方針3

安全・快適に移動・回遊できる 人と環境にやさしい 交通体系や空間を整備し、 人々の動きやにぎわいを まち全体に拡大させる

- ◇安全に移動や待ち合わせ等ができる駅前広場や歩行者空間の整備・機能向上
- ◇鉄道高架事業による鉄道横断動線の整備
- ◇歩行者や公共交通が優先された道路空間の再編
- ◇公共交通の利用促進
- ◇回遊を促すための多様な移動手段の導入

基本方針4

多様な運営主体による まちづくりのハード・ソフト両面の 取組を強化・支援することで、 まちのにぎわいと活気をもたらす

- ◇まちづくりを進めるための組織体制
- ◇エリアマネジメントに携わるまちづくりの担い手の育成・確保
- ◇にぎわいを創出するための徳島固有の文化・産業の活用
- ◇まちづくりの担い手によるソフト施策の推進

4. にぎわい創出に向けたまちづくり施策

基本方針 1

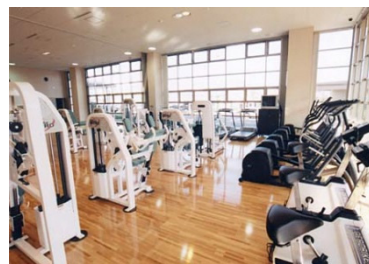
四国東部の中核都市にふさわしい都市機能を集積し、にぎわいを創出する

①都市機能の強化・更新・誘導等による都市拠点形成

行政・業務・商業・文化・観光・歴史・スポーツ等、既存機能の強化・更新及び新規機能の導入により、本市の玄関口にふさわしい都市機能を集積し、人々の活動の中心を徳島駅周辺に誘導する。

【県都の役割を担う都市サービス機能の誘導】

- ・買回り品等を販売する商業施設の維持・更新や、ビジネスや観光での来訪者の消費を促す県内の食材を生かした個性ある飲食店、快適な滞在を促す宿泊施設等の充実
- ・徳島駅周辺地域内に集積している既存の医療施設等の機能の維持
- ・築年数が経過している、公共施設等の更新に関する検討
- ・旧文化センター跡地の活用に関する検討
- ・既存施設（公共施設・空き店舗等を含む）を活用したものづくり店舗等や、時間外（目的外）使用についての検討



健康増進サービス施設イメージ

【気軽に運動ができる健康増進施設の誘導】

- ・勤労世代を中心に、普段の生活の中で気軽に運動ができる環境づくりとしての健康増進施設の充実

②鉄道高架事業により生み出される土地や空間などを活用したにぎわいづくり

鉄道高架事業に伴い、車両基地跡地の活用や徳島駅前広場の再整備と連動しながら、駅周辺用地の高度利用を誘導し、シンボル性の高い建物と広場空間の活用によりにぎわいを創出する。

また、高架下空間についても、駅利用者の利便性を高める機能を充実させる。

【徳島駅周辺用地の高度利用】

- ・既存の徳島駅直近の商業地における、
①建物低層部への都市機能（立地適正化計画における誘導施設等）の導入、②歩行者・にぎわい空間と一体となった環境空間の確保及び高質化、③連続性のある歩行者動線の確保等を条件とした用地の高度利用の誘導（容積緩和）

【高架下空間の活用】

- ・地上レベルにおける駅南北の往来や、公共交通利用者の利便性向上に留意した、高架下空間における商業・サービス施設の誘導



現在の徳島駅北側

③文化施設整備等による新たな芸術文化機能の集積・展開

芸術文化活動の拠点として新ホールを整備するとともに、芸術文化をテーマとした新たな店舗の立地や駅前広場周辺でのイベント開催により、にぎわいを創出する。

【文化施設の整備】

- ・市民の芸術文化活動の拠点となる新ホールの整備

【芸術文化等をテーマとしたにぎわいの創出】

- ・新ホール周辺における、アートギャラリーや工房等の導入促進
- ・徳島駅や周辺の商業施設、歩行者・にぎわい空間と連携した音楽やアート、ファッション、路上パフォーマンス等イベントの開催



ギャラリーのイメージ

④観光情報の発信

観光客へのインフォメーション機能や発信機能の強化、地域資源等を生かしたコンテンツの強化により、魅力あるまちなか観光や滞在型観光を促進する。

【観光案内施設の機能強化】

- ・徳島駅を起点に周遊する観光客に対して、観光・宿泊施設や各地の旬の食材が楽しめる飲食店、イベント等に関する情報を分かりやすく提供する観光案内施設の機能向上や案内サイン等の充実

【伝統文化を伝える施設の魅力化】

- ・にぎわい交流軸を介してつながる阿波おどり会館や眉山について、阿波おどりの歴史や眉山の魅力を伝える取組の実施



事例：大津駅観光案内所 OTSURY

⑤民間の投資を呼び込むための公共空間の魅力化

駅前広場・歩行者空間の再整備及び歩行者が安全に楽しみながら回遊し、滞在できる仕掛けづくりにより、にぎわいの広がりや連続性を創出する。

【歩行者・にぎわい空間における滞在の仕掛けづくり】

- ・駅前広場の空間再編によって生み出される歩行者・にぎわい空間におけるマルシェ等の定期的なイベントの開催や、阿波おどりの演舞場や練習場としての活用
- ・民間が使いやすい公共空間とする仕組みの検討（居心地の良い空間創出に向けてコンテンツの提供も一体的に推進）
- ・子育て層が子連れで出かけられる遊び場や、周辺の店舗等と連携したオープンカフェ等、日常的に市民や来街者の交流や滞留を促す場の設置
- ・川をテーマに活動するNPO法人による、音楽、飲食、水上アクティビティ等水辺のにぎわいづくりとの連携により、まち全体を歩いてめぐる機会を充実



事例：みおつくしプロムナード(大阪市)



事例：天理駅前広場 コフン

⑥まちなか居住の推進

徳島駅周辺の都市機能集積や利便性を生かした、民間事業者によるまちなかにふさわしい住環境の整備を促進する。

【ターゲットに応じた住宅の供給促進・支援】

- ・水や緑の資源が身近にあり、歩いて健康に暮らすことができる環境の良さと合わせた、高齢者や子育て層向け住宅の供給促進
- ・空家情報の提供とリフォームへの助成といった住み替えに対する支援による良質な住宅ストックの維持・更新とまちなかへの居住希望者とのマッチング

【まちなかでの生活サービスの充実】

- ・まちなかでの安心で便利な生活を支える、子育て支援施設の設置・誘導やスーパーマーケット等最寄り品を扱う店舗の誘致

■市立体育館の建て替え等検討

■高架下空間の活用

(南北の往来)
(商業・サービス施設の誘導)

■文化施設の整備

(新ホール建設候補地)

■都市機能とにぎわい空間の連続性の確保

(気軽に運動ができる健康増進施設の誘導)

■芸術文化をテーマとしたにぎわいの創出

(アートギャラリーや工房の導入促進)
(各種イベントの開催)

■観光案内施設の機能強化

■徳島市の伝統文化を伝える施設の魅力化
(阿波おどりの歴史や眉山の魅力を伝える取り組みの実施)

■旧文化センター跡地の活用

凡 例

- 歩行者・にぎわい空間における滞在の仕掛けづくり
- 徳島駅周辺用地の高度利用
(低層部への都市機能の導入や歩行者・にぎわい空間と一体となった環境空間の確保等)
- 県都の役割を担う都市サービス機能の誘導
- ターゲットに応じた住宅の供給促進・支援
- まちなかでの生活サービスの充実
(スーパーマーケット等最寄り品を扱う店舗の誘致)

施策展開図

基本方針 2

地域資源を身近に感じることができる都市景観と、人々が歩いて楽しみ、滞留や交流が生まれる居心地よい公共空間を創出する

①人が集い、にぎわいに触れられる公共空間の創出

徳島駅前広場等の空間を再整備し、多彩なイベントや文化芸術活動等が開催できる空間を整備する。特に、にぎわい交流軸上では、歩行者や自転車優先の空間への再編を進め、にぎわい創出につながる公共空間を連続的に整備する。

【歩行者・にぎわい空間の整備】

- ・現状の駅前広場の空間の再編による、車両優先の空間の減少及び歩行者が安全に滞留、にぎわいの創出につながる空間の拡充
- ・駅前広場から連続する道路空間（国道438号や一番番の通り）について、車道と歩道の空間の再編による歩行者・自転車空間の拡充
- ・徳島駅や駅南側の歩行者・にぎわい空間から中央公園側にアクセスする際の徳島駅北側における公園エントランス空間の整備
- ・イベント利用を考慮した電気・水道等のインフラ整備



出典：旭川市HP



事例：空間再編によって生み出されたゆとりある歩行者空間（旭川市・姫路市）



事例：日向市駅前広場の交流広場

②本市の顔（シンボル）となる玄関口としてふさわしい徳島駅や駅周辺のまちなみ・眺望景観形成

駅前におけるシンボルアートやモニュメントの整備、公共空間における植栽や緑化、照明技術を駆使した効果的な夜間景観の演出等、玄関口にふさわしいシンボル景観を形成する。

【歩行者・にぎわい空間のデザイン】

- ・徳島らしさと四季を感じられる、同一のコンセプトによりデザインされた植栽や照明、歩道、ベンチ等
- ・石や木といった経年変化により味わいを増す素材の使用等、長期にわたり良好な景観を維持する空間のデザイン
- ・植栽や緑化の充実及び、道路協力団体等市民との連携による良好な状態の維持管理
- ・歩行者・にぎわい空間における夜の回遊や滞在を促すための、LEDを用いたイルミネーションやライトアップによる演出



事例：素材や植栽に留意した休憩スペース（甲府駅）

③新町川・助任川の水の資源を感じられる空間の形成

ひょうたん島川の駅ネットワーク構想に掲げる、川の駅・停留所の将来的な整備により、水を感じられる空間を拡充する。

【水辺に親しめる空間や機会の充実】

- ・新町川水際公園ボートハウス前栈橋に加え、新町橋や助任橋のたもとへの新たな栈橋整備による、水辺を通じた回遊機会の充実
- ・かつて徳島城の天然の外堀であった寺島川の復元や石垣の再生による水辺空間の充実
- ・川沿いの建物について、水辺空間に向けた顔づくりを景観基準に基づき誘導



ひょうたん島クルーズ



現在の寺島川

④ 徳島中央公園や眉山の緑、徳島城の歴史などを楽しめる空間の形成

徳島中央公園や眉山等の公園・緑地空間については、植栽や樹木等の適切な維持管理とともに、利用ニーズに応じたサービス施設の充実、アクセスしやすい動線の確保等により、利用を促進する。

【徳島中央公園の魅力化】

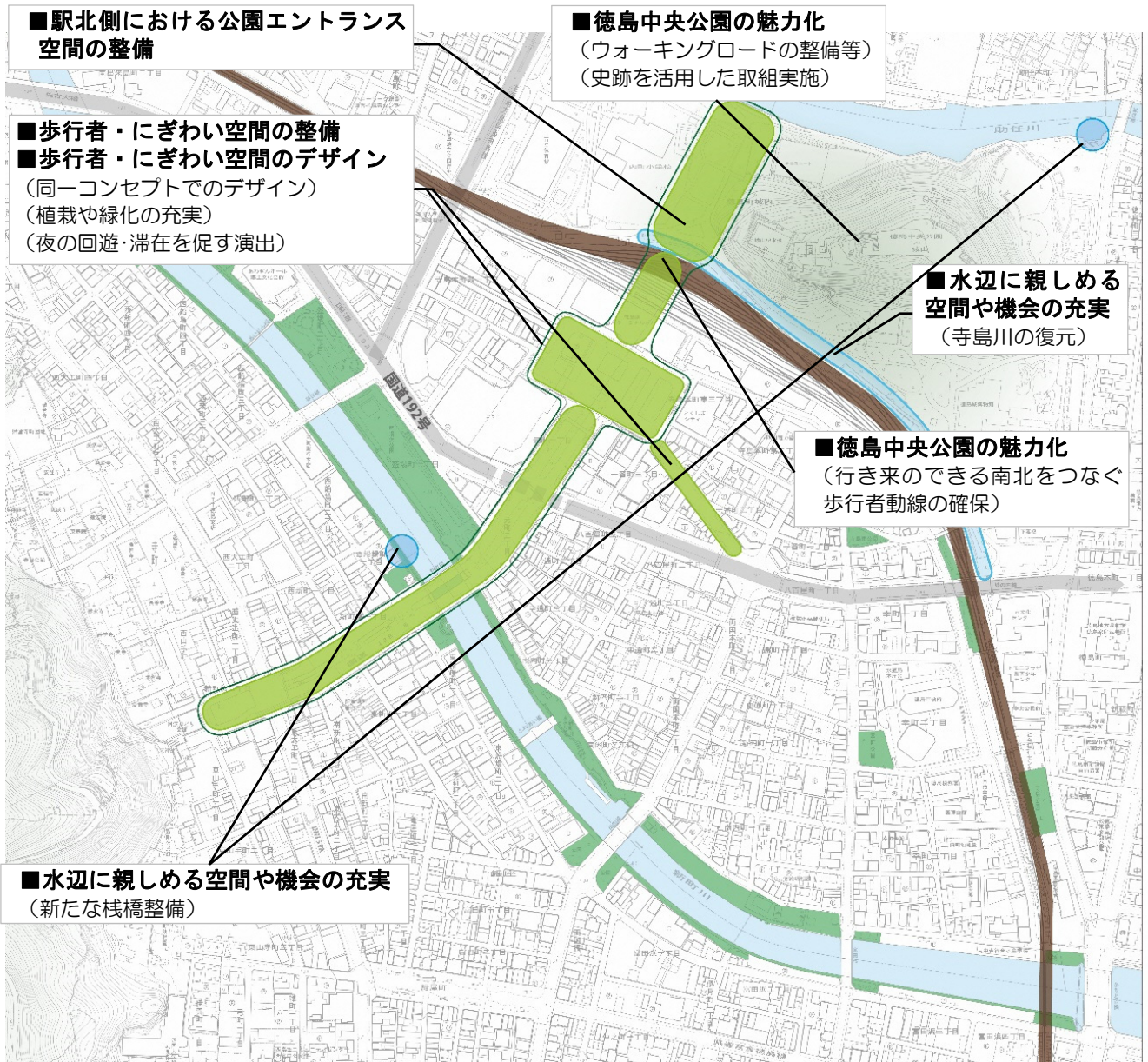
- ・ 周辺の歩行者空間とのネットワークによるウォーキングロードの整備
- ・ 史跡を活用した歴史を学べる取組の実施
- ・ 中央公園が駅南側の市街地から身近に感じられ、行き来のできる南北をつなぐ歩行者動線の確保



ウォーキングの場としての活用イメージ



新町橋通りから見える眉山



施策展開図

④公共交通の利用促進（続き）

徳島駅及び周辺施設への来訪や徳島市中心部居住者の日常生活において、公共交通の利用を促進するための取組を推進する。

【公共交通が相互に連携した利便性の高い公共交通ネットワークの再編】

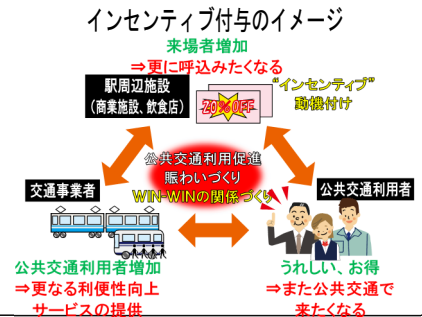
- 公共交通の利用促進のため、鉄道と路線バスが相互に乗り継ぎしやすい運行内容に見直すなど、利便性の高い公共交通ネットワークの再編を検討
- 運行情報等のリアルタイムの情報提供

【鉄道・バス利用に関するインセンティブの付与】

- 公共交通の利用に向けた動機づけの検討、企業や商業施設との連携の検討

【四国まるごと公共交通利用促進キャンペーンの継続実施】

- 徳島中央公園にて、年1回イベントを実施
- 普段、走っている路線バスにお絵かき、後日路線バスとして運行等



⑤回遊を促すための多様な移動手段の導入

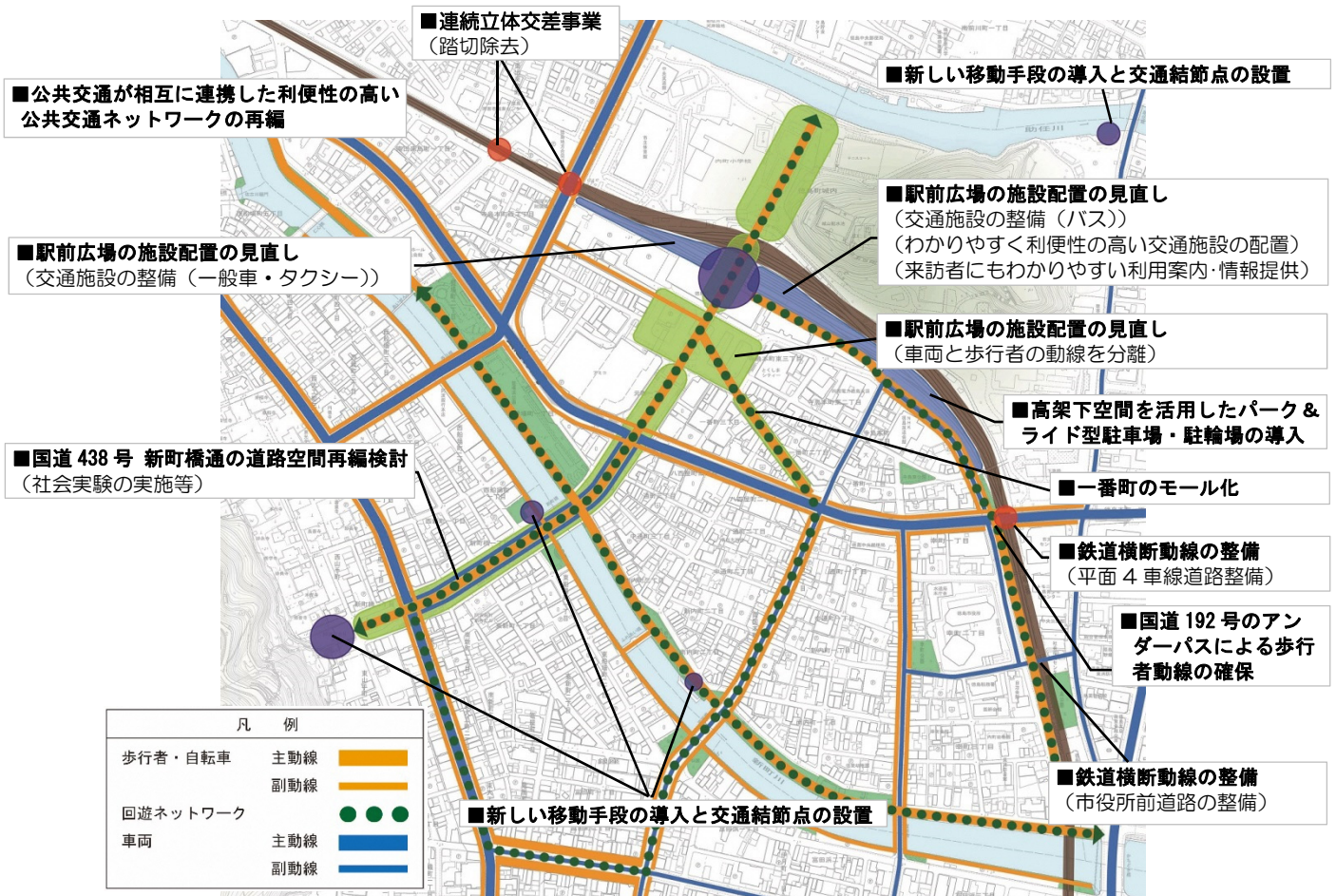
徳島駅周辺歩行者空間や水辺等を楽しみながら回遊できる回遊性、機動性の高い移動手段を導入する。

【新しい移動手段の導入と交通結節点の設置】

- 中央公園や眉山へのアプローチや回遊のための移動手段及び交通結節点の設置
- 新町川・助任川の周遊のための移動手段及び交通結節点（川の駅）の充実



パーソナルモビリティ事例



施策展開図

基本方針 4 多様な運営主体によるまちづくりのハード・ソフト両面の取組を強化・支援することで、まちににぎわいと活気をもたらす

①まちづくりを進めるための組織体制

徳島駅周辺のまちづくりには、行政内の縦割りを超えた連携や、官民協働でまちづくりに取り組める仕組みが必要である。徳島駅周辺のまちづくりを効果的に進めるため、外部専門家の招へいも含めた組織体制により、まちづくりについて検討する。

【まちづくりを進めるための組織体制づくり】

- ・ 市内連携や官民協働の形を探るため、民間公募や地域力創造アドバイザーの活用等を含め、まちづくりを進めるための組織体制について検討

②エリアマネジメントに携わるまちづくりの担い手の育成・確保

徳島駅周辺のまちとしての価値を高め、暮らしやすく、来訪したくなる環境を整えるためには、公共だけでなく、民間が積極的に特定のエリアのまちづくりや地域経営を行う「エリアマネジメント」の取組が重要であることから、官民協働型のまちづくりを行うため、その主体となる担い手を育成・確保する。

【担い手育成】

- ・ 新たなまちづくりの担い手として、多様な人材を巻き込むとともに、都市再生推進法人制度^{*1} や道路協力団体制度^{*2} を活用し、収益性を持ってまちづくりに取り組める担い手を育成・確保
- ・ 育成した担い手（多様なまちづくり団体）と公共が連携しながら、魅力やにぎわいを創出する仕掛けや仕組みづくりを実施

※1 都市再生推進法人制度：地域のまちづくりを担う法人として、行政の補完的機能を担いする団体を指定するもの。指定を受けた団体は、国等の支援を受けながらまちづくりに関する取組を実施。公共空間での収益活動が可能となり、その収益をまちづくりに還元（都市再生特別措置法に基づく制度）

※2 道路協力団体制度：道路における身近な課題の解消や道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取組む民間団体等を支援するもの。道路空間を活用した収益活動が可能となり、その収益で道路の管理に還元（道路法に基づく制度）

③にぎわいを創出するための徳島固有の文化・産業の活用

本市固有の文化・産業を生かし、新たなにぎわいと交流の促進を目指す。

【本市固有の文化・産業の体験】

- ・ 徳島の伝統産業の藍染めや地場産業の木工業、LED 工作等の工芸体験や制作現場見学などのコンテンツを提供し、観光客（特にインバウンド）を引き付ける取組を実施
- ・ 観光客が文化・産業に触れながら市民との交流を促進
- ・ 取組の実施にあたっては、商店街の空き店舗等をリノベーションするなど、周辺施設との連携にも配慮



藍染体験



空き店舗のリノベーション

④まちづくりの担い手によるソフト施策の推進

都市再生推進法人等が、駅前広場や道路等の公共空間を有効活用し、人が来る目的づくりを行い、まちのにぎわい・交流の創出や来訪者の利便促進に寄与するための様々な取組を実施する。

【公共空間におけるイベントやプロモーション活動】

想定される場所	にぎわい創出に向けた活動例
徳島駅前広場、 道路・歩道空間、 水辺空間、 公園・緑地空間	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者向けの空間を活用した多彩なイベント（阿波おどり関連イベント、まちなかマルシェなど） みどりや水の空間を活用したアクティビティ（まち歩きツアー、リバーサイドクルーズなど） 地域資源に関する情報発信や、観光プロモーション活動の誘致 美化清掃活動、植栽活動 など



まちなかマルシェ

【滞留や回遊の相乗効果を発揮する導入機能や配置、景観誘導】

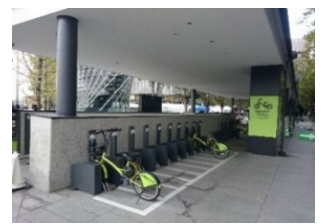
想定される場所	にぎわい創出に向けた活動例
商業施設、 商店街（空き店舗 ・空き事務所）、 文化施設など	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの担い手等が連携して、公共空間でのにぎわい創出に向けたコンテンツを提供（施設の屋外空間と公共空間（歩行者空間）を連続的に利用した休憩所やオープンカフェ等の設置など） 徳島駅周辺地域における回遊ルートの設定と誘導サインの掲示 回遊ルート沿道店舗のファサードの調和等を図る景観誘導 芸術・文化等のテーマにつながる店舗の誘致、テナントミックス（空き店舗を活用したチャレンジショップ、テーマ性を持った飲食店、来訪者向けの物産店、学生や外国人も利用しやすいゲストハウスなど）など



オープンカフェ

【にぎわいの連続性を生み出す駐車場や駐輪場の配置・管理】

想定される場所	にぎわい創出に向けた活動例
駐車場、駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者動線を分断しない位置への駐車場及び出入口の配置 駐輪しやすいスペースの確保 レンタサイクル・コミュニティサイクル等の運営など



コミュニティサイクル

徳島駅周辺まちづくりのスケジュール

実施時期		短期（概ね5年以内）	短中期（概ね10年以内）	中期（概ね20年以内）	長期（概ね20年以降）
徳島駅周辺 基本方針1 都市機能・にぎわい	①都市機能の強化・更新・誘導等による都市拠点形成	県都の役割を担う都市サービス機能の誘導 （商業・飲食・宿泊等機能の充実、旧文化センター跡地の活用、市立体育館の建て替え等検討） 気軽に運動ができる健康増進サービス施設の誘導			
	②鉄道高架事業により生み出される土地や空間などを活用したにぎわいづくり			民間の資金力、組織力、事業遂行能力の活用策の検討	徳島駅周辺用地の高度利用 高架下空間の活用
	③文化施設整備等による新たな芸術文化機能の集積・展開	文化施設の整備 （新ホールの整備）	芸術文化等をテーマとしたにぎわいの創出（アートギャラリーや工房等の導入促進）（各種イベントの開催）		
	④観光情報の発信	観光案内施設の機能強化	伝統文化を伝える施設の魅力化 （阿波おどりの歴史や眉山の魅力を伝える取組の実施）		
	⑤民間の投資を呼び込むための公共空間の魅力化	歩行者・にぎわい空間における滞在の仕掛けづくり（定期的なイベントの開催等）（日常的に交流や滞留を促す場の設置）			
	⑥まちなか居住の推進	ターゲットに応じた住宅の供給促進・支援 まちなかでの生活サービスの充実（スーパーマーケット等店舗の誘致）			
徳島駅周辺 基本方針2 都市景観・公共空間	①人が集い、にぎわいに触れられる公共空間の創出		歩行者・にぎわい空間の施設配置、デザイン等の検討・関係機関との協議調整等		歩行者・にぎわい空間の整備
	②本市の顔（シンボル）となる玄関口としてふさわしい徳島駅や駅周辺のまちなみ・眺望景観形成		植栽や緑化の充実、維持管理・LEDによるイルミネーション、ライトアップ等		歩行者・にぎわい空間のデザイン
	③新町川・助任川の水の資源を感じられる空間の形成	徳島中央公園の魅力化 （史跡を活用した取組の実施）（周辺の歩行者空間とのネットワークによるウォーキングロードの整備等）			
	④徳島中央公園や眉山の緑、徳島城の歴史などを楽しむ空間の形成	水辺に親しめる空間や機会の充実 （新たな栈橋整備、寺島川の復元等による水辺空間の充実）			
徳島駅周辺 基本方針3 交通体系	①安全に移動や待ち合わせ等ができる駅前広場や歩行者空間の整備・機能向上	（既存区域内でのわかりやすい利用案内・情報提供による乗換・乗継機能の改善等）		（施設配置の検討）	駅前広場の施設配置の見直し 歩行者ネットワークの形成
	②鉄道高架事業による鉄道横断動線の整備	鉄道横断動線の整備 （市役所前道路の整備等）			
	③歩行者や公共交通が優先された道路空間の再編	国道438号の道路空間再編 一番町のモール化 （※計画検討、社会実験）			国道438号の道路空間再編 一番町のモール化
	④公共交通の利用促進	公共交通が相互に連携した利便性の高い公共交通ネットワークの再編 鉄道・バス利用に関するインセンティブの付与			
	⑤回遊を促すための多様な移動手段の導入	新しい移動手段の導入と交通結節点の設置 高架下へのパーク＆ライド型駐車場・駐輪場の導入			
徳島駅周辺 基本方針4 まちづくり担い手	①まちづくりを進めるための組織体制の検討	まちづくりを進めるための組織体制による検討			
	②エリアマネジメントに携わるまちづくりの担い手の育成・確保	担い手育成			
	③にぎわいを創出するための徳島固有の文化・産業の活用	本市固有の文化・産業の体験			
	④まちづくりの担い手によるソフト施策の推進	公共空間におけるイベント活動やプロモーション活動 滞留や回遊の相乗効果を発揮する導入機能や配置、景観誘導 にぎわいの連続性を生み出す駐車場や駐輪場の配置・管理			

緑字：ハード的な取組 青字：ソフト的な取組